

第2分科会(遭難対策部門)

11月16日(日)9:30～12:00 2025

2025年 遭難対策部

遭難対策部・連盟救助隊の活動報告

遭難対策部部長 連盟救助隊隊長

バビシェ・マウンテンクラブ 大辻 英一

道央地区勤労者山岳連盟会員の皆様、日頃からの安全管理・遭難対策活動などにご協力くださり感謝申し上げます。

遭難対策部は、連盟理事からなる遭難対策部員と、各会から選出された遭難対策担当者にて構成されています。主な活動は、事故・ヒヤリハットの情報収集と分析・啓蒙、連盟救助隊・北海道雪崩講習会との連携、登山研究集会の開催・論文集作成などです。

今年のテーマは『山岳会の安全管理体制』としました。各山岳会に計画書の提出方法・山行下山の確認方法・遭難時の対応などのアンケートにご協力を頂きました。

各会の遭難対策担当者の皆様、ありがとうございました。会によって確認方法の違いがあり、自分の会が抱える問題改善のヒントがあるかもしれませんので、ぜひ参考にされてみて下さい。

2025年1月～9月までの道央地区連盟の事故報告・全国連盟から死亡事故報告、詳細については、別ページにて記載しております。

今年の遭難対策部の活動としては、7月5日(土)・6日(日)の2日間、兵庫県神戸セミナーハウスで開催された第5回全国救助技術交流集会に参加してまいりました。全国救助技術交流集会は、全国連盟により2年に1度開催されている企画となっております。第1回は長野県、第2回は新潟県、第3回は福岡県、第4回は北海道での開催でした。今回は、ココヘリを運営するAUTHENTIC JAPAN 株式会社より八木澤専務による講演がありました。ココヘリの最新機種から新サービスの情報、そして天候が悪くヘリが飛ばない場合に活躍が期待されるココヘリをドローンに搭載して探索するシステムの説明がありました。最新機種にはGPSも搭載されている為、万が一の時にどのエリアで遭難したのか特定できる素晴らしいシステムです。そして現在、au がサービスを開始している au Starlink Direct 衛星通信により、圏外のエリアはなくなりました。圏外になりがちな山の奥地や、海外へ行かれる方はぜひ検討されてみてはいかがでしょうか。現段階においては画期的な遭難対策システムとなっております。

最後にココヘリの AUTHENTIC JAPAN 株式会社様から最新機種情報と、細谷火工株式会社様から山でも使える発煙灯『ポッケム』のフライヤーを頂きましたので掲載します。ココヘリのヘリなどが来た際に煙で位置を知らせる事ができます。

第5回全国救助技術交流集会 実施要綱（案）

日本勤労者山岳連盟
遭難対策部

期日 2025年7月5日(土)～6日(日)

場所 神戸市立神戸セミナーハウス・講堂

参加対象 地方連盟および加盟団体の遭難対策担当者、それに準ずるもの

日程 5日 12:30 受付
13:00～13:30 全国連盟遭対部 基調報告
13:30～15:15 ココヘリ搜索の現状と今後について
休憩 15分
15:30～18:00 質疑・応答・報告・討論
(地方連盟からの搜索・救助事例報告)
18:00～21:00 夕食・懇親会

6日 9:00～10:30 搬送技術(ザイル担架の作り方他)
休憩 15分
10:45～11:30 質疑・応答
全国遭対部まとめの報告の後、12:00 解散
※天候によっては百丈ヤグラの利用方法について(紹介と実演)

費用 1. 宿泊付全日程参加者は6,000円(資料・一泊二食付)
2. 日帰り参加者は一日で二日でも500円(資料代)
3. 交通費は各自負担
4. 各地方連盟・加盟団体報告者の宿泊費と交通費は全国連盟が負担します。

宿泊 神戸市立神戸セミナーハウス
〒651-1503 神戸市北区道場町生野字 ロクゴ 318-2 TEL: 078-985-4391

問い合わせ先 全国連盟事務局 TEL 03-3260-6331
FAX 03-3260-6331 E-mail jwaf@jwaf.jp

申込締切 2025年6月23日(月) 別紙にて全国連盟事務局まで

道央事故報告

1	発生月日	会名	山域・発生箇所	発生状況	障害の程度
2	2月21日 14:00頃		チセヌプリスキー場・リフト周辺	45歳女性会員。山スキーで、下山時、凹凸斜面でバランスがとれずに転倒し、右足を捻った。翌日右膝内側に痛み。	右膝関節内側側副じん帯損傷
3	2月23日 10:00頃	同人ラリーグラス	ワイスホルン山頂手前のピークから南斜面	60歳女性会員。山スキーで、雪も降っていて視界不良。滑走開始直後は視界あったが、じぎに視界がなくなり転倒。右膝を捻ってしまった。	前十字靱帯断裂剥離骨折
4	3月7日 13:00頃	さっぽろ山遊会	百松沢山源八沢ルート 550m付近	66歳女性会員。積雪期登山で、下山中に滑って転倒し、右足踝を雪に隠れていた氷にぶつけた。痛みと腫れがあるので、踝を湿布し、患部固定して登山靴を履いて痛み止めを飲んだ。パーティーでリュック等を分散して持ち、事故者はゆっくりと自力下山した。下山後に整形外科を受診し	転移先病院の診断前なので不明。
5	4月17日 13:00頃	バビシエマウンテンクラブ	ニセコアンヌプリ頂上直下 北斜面	29歳女性会員。山スキーで下山開始後、滑走時にターンに失敗して転倒。その際に右膝を痛めた。	右膝蓋骨脱臼
6	4月19日 10:30頃		義経岩 バチアタリルート	27歳女性会員。義経岩バチアタリルートを登攀中に、手織り落ちをしてフォール。グラウンドフォールとなり、お尻を強打した。	尾骨の骨折
7	4月22日 11～17時	札幌山びこ山友会	中山峠 蓬萊山～幌滝山ピストン	70歳女性 山スキーの練習中、東斜面に下り迷う。数時間後に230号線に自力で戻る。怪我なくおえたが、道警・消防によるヘリ捜索が行われた為、当該会より事故報告としての提出。	なし
8	7月20日～7月21日	スマイルマウンテンクラブ	南暑寒岳登山道	5時20分に南暑寒荘登山口を出発し、途中雨竜沼展望台で休憩をとり、7時50分ごろ事故発生場所にて2回目の休憩中、半分崩壊した(木が朽ちて斜めに傾斜していた。)見晴台の上部にて、湿原を見下ろして写真撮影をしていたところ、蜂が首筋に止まり、それを追い払ったときにバランスを崩して転倒。その際に右手首を見晴台に強く打ち付けた。事故発生当時は痛みを感じたものの、指も動き、腫れもあまり見られなかったので、打撲であると判断し登山を継続した。翌日も腫れと痛みが効かなかったため、夕方に	右前腕尺骨骨折
9	7月27日	ハイキングネットワークこだま倶楽部	大平山 泊山コース	3人パーティーでの無雪期登山。霧雨の中を下山中、急斜面の濡れた笹で滑り転倒。左手を強打した。	左手首 橈骨遠位端骨折 尺骨茎状突起骨折

全国死亡事故一覧

	地方連盟	年齢	性別	事故発生日	事故発生時	パーティ 人数	都道府県	山名	場所	山行形態	事故原因	事故状況	傷病名
1	静岡県	60	男	2025/04/26	14時40分頃		長野県	涸沢	涸沢ヒュッテ手 前の登山道	積雪期	病気	14時40分頃。登ってきた 手塚さんが「ウ」か「ア」 のような声を出して倒れ た。後続の登山者がこれ を見て山岳救助隊を呼 び、15時20分ヘリで搬 送。相澤病院にて16時 33分に死亡を確認。	心疾患と見 られる
2	岡山県	69	女性	2025/05/03	11時30分頃	20	岡山県	広戸仙	ふるさとコース のシャクナゲ滝 を過ぎた傾斜地	無雪期登 山	転・滑落	シャクナゲ滝の沢を通過 後、傾斜地のトラバス道 を通過中に登山道から沢 に転落。1115m付近 沢 中にうつ伏せた状態の遭 難者をリーダーが発見。 他の救助者とともに人工 呼吸を開始。約1時間に ヘリで救助隊が到着。病 院に搬送。	多発外傷の ため死亡
3	山梨県	68	男性	2025/07/21	-		山梨県 ～長野県	甲斐 駒ヶ岳・日向 山	尾白川・鞍掛沢 ～乗越沢	沢登り	転・滑落	駒薙の頭付近に上り詰め る急な尾根で沢床まで 15mほど転落。17時半頃 県警ヘリでピックアップ。 最初に墮ちた地点より20 ～30m離れた場所でピッ クアップされたように見え たので再転落の可能性 あり。	脛骨骨折か 他多数の損 傷・死亡。
4	東京都	49	男性	2025/08/16	10時00分頃	2	長野県	北穂高 岳	滝谷クラック尾 根	登攀	転・滑落	滝谷クラック尾根の1ピッ チ目をセカンドで登攀中、 上部で落石が発生し頭 部に直撃。更に落石によ りハーネス手元のロープ が切断し60m程転落し た。	多発外傷に より死亡
5	東京都	78	女性	2025/08/22	19時00分頃	2	北海道	カムイ エクウ チカウ シ山	札内川セノ沢出 会付近		その他	22日夕刻に増水した札 内川を渡渉している最中 に溺死したものと推定さ れる。23日14時に遺体発 見。事故発生日時も推 定。	溺死

民間で唯一の捜索システム



COCA COLA WATER BOTTLE AWARDS

見つけやすために

01

民間ヘリによる捜索

山域での捜索は、上空からが圧倒的に確実。だから私たちも民間で唯一「ヘリ捜索」を実施します。



見つけやすために

02

電波による捜索

山域はスマホ圏外も多く、地形情報は正確も困難。だから私たちは民間で唯一専用の「発信機」を発売します。



見つけやすために

03

事故発生直後から捜索

実際の事故では時間がかかり見失います。だから私たちは民間で唯一「一泊捜索」体制から始めている。



新型発信機仕様

※GPS機能の違い従来型発信機プランあり



COCA COLA WATER BOTTLE AWARDS

◆ 発信機仕様

主な仕様

※ 本機は「Type C」が発信機として利用可能。

・ 材質：アルミ

・ 重量：約45g

・ 防水・防塵性能：IP68等級（最大水深10メートルで最大30分間）※ 本機は「Type C」が発信機として利用可能。

・ 充電端子：Type C

・ 充電端子：Type C

・ 充電端子：Type C

・ 充電端子：Type C

・ 充電端子：Type C

・ 充電端子：Type C

・ 充電端子：Type C

・ 充電端子：Type C

・ 充電端子：Type C

・ 充電端子：Type C

・ 充電端子：Type C

・ 充電端子：Type C

・ 充電端子：Type C

・ 充電端子：Type C

・ 充電端子：Type C

・ 充電端子：Type C

・ 充電端子：Type C

・ 充電端子：Type C

・ 充電端子：Type C

・ 充電端子：Type C

・ 充電端子：Type C

・ 充電端子：Type C

・ 充電端子：Type C

・ 充電端子：Type C

・ 充電端子：Type C

・ 充電端子：Type C

・ 充電端子：Type C

・ 充電端子：Type C

・ 充電端子：Type C

・ 充電端子：Type C

・ 充電端子：Type C

・ 充電端子：Type C

・ 充電端子：Type C

・ 充電端子：Type C

・ 充電端子：Type C

・ 充電端子：Type C

・ 充電端子：Type C

・ 充電端子：Type C

・ 充電端子：Type C

・ 充電端子：Type C

・ 充電端子：Type C

・ 充電端子：Type C

・ 充電端子：Type C

・ 充電端子：Type C

・ 充電端子：Type C

・ 充電端子：Type C

・ 充電端子：Type C

・ 充電端子：Type C

・ 充電端子：Type C

・ 充電端子：Type C

Strap Hole

アルミニウム製・耐重量80Kg

本体

高精度に優れた

ガラス繊維配合樹脂製ケース

総重量：約45g

防水性能：防塵性能 IP68等級

（最大水深10メートルで最大30分間）

充電端子

Type C



新型発信機の強みは、GPS+直接通信

ココヘリの強みは「直接通信」です。直前までの捜索対象者の位置が分かれば、発信機の電波を上空の専用受信機で補足。最大16km→0mまで絞り込むことが可能です。

山岳エリアに於いて、GPS搭載の新增機は、どのルートに入山したかをGPS移動履歴（SONY by ELTRES）で把握。GPS圏外に移動していても直接通信と組み合わせることで、さらなる早期発見に繋げることができます。

海では

風や潮流によって遭難者は移動してしまいます。GPSの移動履歴で常に最終地点を把握することにより早期発見につなげることが出来ます。



2025 遭難対策部アンケート結果

[illegible]

BMC 携行用遭難対策マニュアル



1. 救助要請の場合

- 緊急を要する場合、ヘリ要請などは警察に！
- 会内への救助要請の連絡の優先順位



※ココヘリ所有者は会への連絡と110番後、ココヘリ捜査専用窓口へ通報

- メンバーや居合わせた登山者へ連絡依頼する場合は、メモで済す。計画書が複数枚あれば可能な限り計画書に書き加えて託す。
- 家族や友人に救助要請は情報が不正確な可能性あり、避ける。

3. 救助までの待機

- ### ●ビバークの準備

安全な場所の確保（ツェルトや雪洞、地形を駆使）
ヘリでのピックアップは開けた平地や稜線などに移動

- ### ●受傷者への対応

出血部位を心臓より高く上げ圧迫止血/骨折部位は固定
体幹や脇の下を保温、加温/靴紐や衣類を緩める

- 定時連絡（家族や友人には通信機器のバッテリー温存のため連絡を避ける）

- リーダーはメンバーに状況説明し今後の方針を伝える

2. 救助要請内容

- 要救助者の氏名

- 事故発生時間、発生場所、待機場所、ココヘリ有無
(GPSの緯度・経度/周囲の地形/どのコースをどこへ/
どこを何時に通過/デポ地点)

- 要救助者の服装や色、ザックやツェルトの色

- 要救助者の症状や容態、他メンバーの状況

- 現地の気象、持参した燃料や飲食物の残量、装備

- 会内部の緊急無線チャンネルの確認（計画書に記載）

- 定時連絡の約束（次回連絡時間まで電源OFF）

遭難対策本部の設置と活動

- ・予備日を含めた最終下山日時が過ぎて連絡がない場合、下山連絡担当が本人の下山を確認できない場合にも連絡と扱い、本項の体制をとる。
- ・他会及び他パーティの救助要請時も、要請を受けた会員は代表または副代表に相談すること。必要あれば、本項の体制をとり協力を行う。

- ※現地への救急隊出動は二重確認、救助隊員の事故の可能性がないことを確認し、決定すること。

- ①山行計画書の内容の再確認 ②会員への連絡

- ③必要に応じて現地警察及び建設救助隊、現地山岳会や親友会、仲関係機関に連絡。

- ④救助方針・方法、装備、救助隊メンバーの検討と確保

- ⑤ 現地の天候や積雪状況などの情報収集 ⑥ 避難者家族への第一組

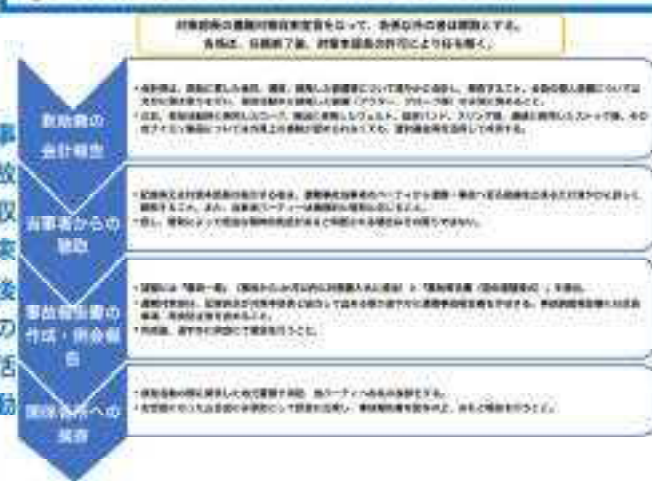
- ### ⑦ 現地への救助隊出動

- ⑧救済金の贈与手段確保と、受け入れ可能な医療機関の確保

遭難対策本部組織図



事故収束後の活動



道央連盟救助隊2025年度 春の訓練報告

実施日：6月21～22日

報告者：白石 泰之（副隊長）

場 所：三笠市桂沢浄水場周辺

参 加：21,22日 11名,9名

今回は春の訓練と、赤岩のトイレ工事が重なる為、三笠で訓練を行いました。講師阿部さんの友人の敷地を利用させて頂き、ハイレイン、ローアングルの訓練を行いました。訓練地としては地形、宿泊場所、風呂、食事、ともに最適な場所でした。

オブザーバは、恵庭消防から1名、秀岳荘から1名、宮城県朋友会から2名参加し、宿泊場所の幾春別会館中島集会所に集合し、初めに2日間の訓練説明を行いました。

1日目はイングリッシュリーピングラインシステムの縮小版を展示、説明の後、森の沢地形を利用し、林の全長40メートルのシステムを作成しました。

下記が1日目のハイレインシステム概要図になります。左側のビレイ器具が付いているエリアがストロングサイド、ロープの引き込みや、担架の上げ下げを行います。右側の木がウィークサイド、主にロープを固定、折り返す場所になります。ロープは6本使用し、赤青は、チロリアンロープ、紫が戻るライン、緑を引くと対岸に進みます。黄色が担架の確保ロープ、水色が担架を上下させるロープです。

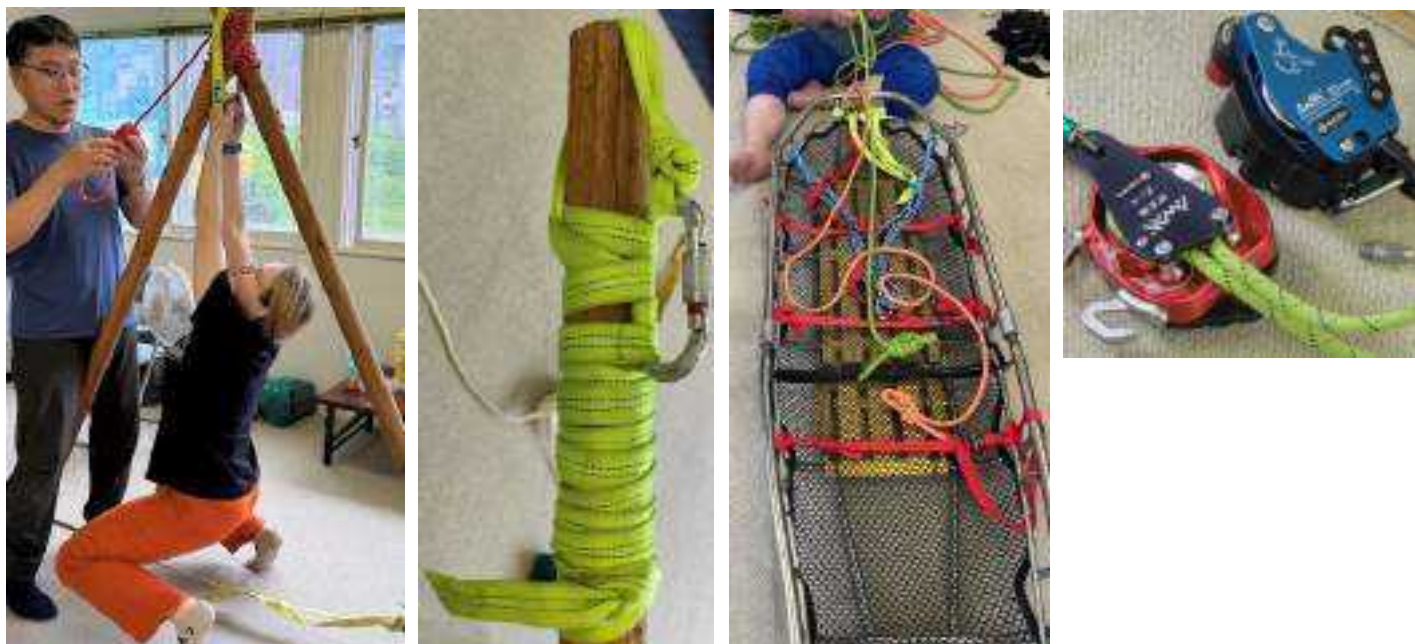
右側の道具のイラストは、このシステムで使用したものになります。チロリアンをしっかり作るとなると、下記の道具を使用することになります。水色のロープ末端はリギングプレートにつければプーリーが一つ減ります。



2日目は、午前中雨天で、ロープワーク、ビレイステーション、木製フレーム作成法を学びました。

左から A フレーム、モノポールのカラビナ固定法、担架の組み方、秀岳荘の小田さんに電動ドリルが使用できるビレイデバイスを紹介して頂きました。今後普及するデバイスになると思われま

す。



午前中に雨が止んだので A フレーム、ジンポールの木製フレームを作成と、松の木をジンポールとしてシステムを作成し、ローアングルの引き上げ訓練を行いました。



今回、1 日目にハイライン、2 日目にローアングルの引き上げ、木製フレームを使用したローアングルの引き上げ訓練を行いました。2 日目は朝に雨が降ったものの、その時間を各システムの重要な部分を学ぶ時間にでき、とても良いバランスで訓練を終えることが出来ました。ハイラインの技術は、今まで行っていなかったもので、次年度も訓練内容に組み込めるようにしていきたいです。数年ぶりのマイマイガに悩まされましたが、普段の海岸部とは違う、樹林帯で訓練を行うことが出来良い訓練が出来ました。

来年は新しいトイレになった赤岩での訓練になるかはわかりませんが、現状の練度を少しでも向上できるよう、内容を考えていきます。